



再生可能エネルギーのさらなる普及に向け、大手企業などが、道内の送電網に接続する「系統用蓄電池」を整備する動きが広がっている。接続申し込み分の総出力は、昨年12月時点と同5月比1・8倍に増えた。背景には需給調整用の電力を取引する市場の運用本格化もある。ただ、送電網の空き容量は依然として不足しており、関係者は政府が月内にも見直し議論を始めるエネルギー基本計画や、市場での電力価格の行方を注視している。

系統用蓄電池は主に、太陽光や風力などで発電した場合に蓄電し、必要に応じ再エネ電力が需要を超えたときに蓄電し、必要に応じて供給する。道内の送配電を担う北海道電力ネットワークへの接続申し込み（検討段階含む）は、昨年12月時点で約400件。総出力は590万キロワットに達し、道内

道内の主な系統用蓄電池			
稼働時期	事業者	設置場所	出力
2023年6月	パシフィコ・エナジー	札幌市	2千キロワット
23年9月	住友商事	千歳市	6千キロワット (30年度までにさらに10万キロワット超を計画)
24年3月	ENEOS	室蘭市	5万キロワット
25年10月(予定)	丸紅	北広島市	2万5千キロワット

ENEOS（エネオス）は3月末、同社室蘭事業所で出力5万キロワットの蓄電池を稼働。大手商社の丸紅は2025年10月、北広島市内で出力2万5千キロワットの蓄電池を稼働させる予定だ。住友商事は昨年9月、千歳市内で出力6千キロワットの蓄電池を整備したのに続き、30年度までにさらに出力10万キロワット超の稼働計画があるという。北電も系統用蓄電池事業への参入を検討している。

道内では昨年10月、太陽

の平均電力需要350万キロワットを上回る規模となった。ただ、あくまで瞬間的な総出力で、需要をまかなう電力を供給し続けられるわけではない。

ENEOS（エネオス）は3月末、同社室蘭事業所で出力5万キロワットの蓄電池を稼働。大手商社の丸紅は2025年10月、北広島市内で出力2万5千キロワットの蓄電池を稼働させる予定だ。住友商事は昨年9月、千歳市内で出力6千キロワットの蓄電池を整備したのに続き、30年度までにさらに出力10万キロワット超の稼働計画があるという。北電も系統用蓄電池事業への参入を検討している。

蓄電池の新設や更新で、つながる投資を促す国の大手札された52件のうち30件はたな入札制度で本年度、落札された52件のうち30件は



課題は、送電網の容量だ。  
（権藤泉）

政府が本年度見直すエネルギー基本計画は、35年度前10時時点と0・01円だったのに対し、午後7時時点では約1200倍の12・88円となった。単価が安い時間帯は蓄電し、値上がりしたタイミングで売電すれば、事業者の収益性が高まる。課題は、送電網の容量だ。

（権藤泉）

件は道内分だった。  
需給を調整する電力を取引する市場が、4月から本格的に運用を始めたことも

蓄電池の整備を後押しする。電気の市場価格は太陽光などの発電量が多い日中になると、調理などでも使用量が増える夜は高くなる傾向がある。5月3日の道内の1キロ当りの単価は午前10時時点と0・01円だったのに対し、午後7時時点では約1200倍の12・88円となつた。単価が安い時間帯は蓄電し、値上がりしたタイミングで売電すれば、事業者の収益性が高まる。

蓄電池の総出力が増えて、送電網の容量が不足してしまって、再エネ電力を生かしきれない。北電ネットワークは送電網の増強に加え、容量に空きのある地域への蓄電池設置を促すため、所有地の貸し出しも進めている。

政府が本年度見直すエネルギー基本計画は、35年度

以降の電源構成や新たな再生能源促進策が焦点となる。北電ネットワークは蓄電池の接続を申し込んだ商社は「稼働時期は新たな制度や市場価格の動向を見極めて判断したい」としている。



年 組 名前

道新で  
ワークシート

① 記事中から、「再生可能エネルギー」にあたる発電方法をあげてみよう。

② 再生可能エネルギーを無駄なく使うために、必要なことは何ですか。

記事を参考に答えてみよう。

③ 以下を調べてみよう。

〈1〉 他に再生可能エネルギーにはどのような種類があるでしょうか。

〈2〉 再生可能エネルギーのメリットとデメリットは何でしょうか。